
ペーパー学園

絶望先生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ペーパー学園

【Nコード】

N4635V

【作者名】

絶望先生

【あらすじ】

転校してきたハヤテ！！

その物語だ！！

ペーパーマン(前書き)

よろしく

ペーパーマン

ここは、ハヤテがペーパー学園に来る前にいた
訓練場である…

〈訓練中〉

「ハヤテ!!」

「え？」

バキューン!!!!!!

「つめが甘かったか…」

ドタッ

ハヤテの頭を、一発のSRが
スナイパーライフル
貫く…

「訓練終了!!!!!!」

同時に司令官の笛の音になる

「ハヤテ!!!!!!またお前はいつでも打てるように構えなかった!!!
!これは戦場みたいなものだぞ!!!!!!」

「す…すみません…」

この時のハヤテは少し気が抜けている

「いいか、いつなんどきにも対応できるように常に武器を構えておけ」

「了解！…！」

「了解じゃない！！！！ハイだろうが！！！！」

ポカーン

ハヤテの頭を、司令官が殴る

「いつてー…」

ブルルルルル

「はい、私です…はい…分かりました」

「ハヤテ」

「あ、ハイ！！」

「訓練長がお呼びだ、行つて来い」

「ハイ！！」

「ハヤテ君、君にはうれしいことかも知れない」

「え？何がですか？」

何も知らないハヤテである

「今日から、君はパピルス城にある、ペーパー学園に入学してもらう」

「…それって本当ですか!？」

「ああ…」

「よっしゃー!!!!!!」

相当うれしいハヤテである

「で、いつからですか？」

「今日から」

「分かりました!!!!!!」

（余分な準備はカットです）

くパピルス王国く

「ここがペーパー学園かあ…」

「さてと、校長室は…」

タッタッタッタ

「遅刻だ遅刻ー！！！！」

「え？うあああああああああ」

ドーーーーーン

「いつてー…だ、大丈夫か！？」

！！！！！！

スカートからパ○ツがみえてっぞ！！！！

「いったー…大丈夫です…」

「そっぴゃ、校長室ってどこだ？」

「あ、じゃあ私のところについてきてください…でも転校生ですか

「？」

「あ…まあそんな感じ」

「じゃあ、付いてきてください」

スタスタ…

包帯男「……ティナがなぞの男と……」

「ゆるさんぞおおおおおおお！……！！」

（校長室）

「あの、校長は……」

「はて、どうそれかな？」

「え？なにこのポンコツロボット」

「誰がポンコツじゃあああああ！……！！」

ドドドドドドドドドドドドドドドド（AK）

「ぐあああああああ」

ドタ…

「あのー、先生この人が転校生って…言っていましたので」

「あ、彼が例の転校生か」

「私はドットン、この学園の校長だ」

（さっきは…ポンコツといってすみませんでした）

「さて、まああれだから教室にきなさい」

〈教室〉

ティナ「おっはよー！！！」

ミリィ「おはようねー」

「あれ？サイラスは？」

ガイ「いつもの事だ、気にすんな」

テリシア「ねえ、私のコンサート見た？」

アルル「すごかったよー、目が輝いちゃった」

ヴァン「そっぴや、転校生が来るんだったな」

〈教室前〉

校長「さあ、ハヤテ君自己紹介を…」

スタスタ

「あれ誰だ？」

「えっと…僕は今日からペーパー学園に入るハヤテです!!!!」

みんなの心の中

ティナ（よろしくね）

ミリィ（カッコいい…／＼／＼）

ガイ（…どんな奴なのか見せてもらおうか）

テリシア（にゃ!!!!私のカレシ!!!!）

アルル（ポヨーン）

ヴァン(････)

— — — — —

サイラス「ハヤなんとかさあああああん！！！！俺がいまからぶっ潰す……」

ター

「グホ…」

リカ「静かにしなさい」

ハヤテ（…ボンキュッボン！！！！！！）

ティナ（なぜあそこまで胸が…）

ミリアイは!!!

ガイ（ブシャー——〔鼻血の音〕）

テリシア（によによ！！私だつてあるもん／＼）

アルル「せんせー、ガイ君が大量の血を消費してまーす」

ペーパーマン(後書き)

間に合ったよね!?

セフセフー

学校の放課後（前書き）

とゆうわけで二話更新です!!!
台風で遅くなりました
すいません

学校の放課後

「えー、つまり、これはこれで…」

俺はハヤテ

最近、ここペーパー学園に来た生徒だ

まだ分からないことだらけだけど
これからもっと強くなりたい

「ハヤテ君！！！」

あ、しまった…

「は、はい、何でしょう」

あわてながら席を立つハヤテであつた…

キン コーン

カーン コーン

「今日一日終わったー！！！」

まだ慣れない生活にくたびれるハヤテ

とそこへ、かわいい女子二名がくる

「ハヤテ君、今日君の部屋いい？」

ハヤテは転校する前は学校の訓練場にある寮で過ごしているが
ペーパー学園は、寮と言うより

部屋がたくさんあるため、無料で部屋を使うことが可能

それはあるお姫様が作りすぎたためである

「ああ、いいよ全然」

「ありがとう!!」

「おい、俺たちも行かせてクレー」

ガイとヴァンたちが言う

「オッケー」

(……ジィー)

包帯人間がカーテンに隠れてみている……

ハヤテたちはそれに気づかずハヤテの部屋に行った……

そして、ペーパー学園4階

ちなみに3階までは学校

4階から6階までは部屋（寮）になっている

「おじゃましーす」

四人と一人が入る

「すごいダンボールの数!!」

「ごめん、まだ来たばかりで荷物が片付かないんだ」

ハヤテがきたのは2週間前

さすがに片付かないのも無理ない

「私たちが手伝おうか？」

「い、いや…そんな迷惑かけるわけには…それに遊びにきたんだし…」

「いいじゃないの…」

ギユ

ハヤテの腕にティナの胸があたる

（ギヤーーーーー）

変態包帯がカーテンから出てくる

ガイ&ヴァン「どっからわいて出てきたんだ!!!サイラス!!!」

取り押さえられ、追い出されるサイラス

「…ビックリしたー…」

驚いて言葉が出ないハヤテである

「じゃあ、片付いたら、ハヤテ君の部屋に泊まらせて」

えーーーーーーーー

どっからその言葉が出てくる

「いいんじゃない？サンセー」

ガイとヴァンくうううんーーーー！！！！
裏切らないで…

「じゃあ、決まり！」

えーーーーーーーー

何やかんやで片付けが始まった

（三十分後）

「片付いたー」

「さてと、ご飯作らないと…」

「ハヤテ君！！！！カレーライス作って！！！」

キラキラと目を光らせながらミリイが言う

「ただ泊まりたいんですか」

「それに服と布団だつて……」

「服ならあるよ」

ティナがどこから持ってきたか分からないのに、服を持っている

用意すぎるよ...

「布団もあるぜ」

人数分の布団を持ってきたガイ

「ただ僕の家泊まりたいんですか……」

ガタ！！！！

「何で私も呼んでくれなかったの!？」

テリシアが玄関のドアを開けて言う……

「えー……！！！」

このタイミングできちやいますか…

そして人数は…

$$\frac{1}{3}x$$
獸
x
3

包帶
X
1

明らかに包帯いらんじゃね？

晩御飯

「ウメー――――！！！」

「おいしいね」

ハヤテはこう見えて意外と料理が得意という

そしてみんなたくさん食った

ハヤテも食った

ハヤテはほとんど食ってないけど

「それじゃー！！風呂に入りますか！！」

ブハアーーー

カーテンから赤い液体が流れてくる

「ギャーーーー！！！！」

カーテンごとハヤテがキックをして飛ばす

「あの…あんま言いたくないんだが…下着あるの？」

「あるよ」

バサ

女の下着が落ちる

そしてハヤテは目が釘付け

ブシャアアアアアアア

ドタ

「しっかりしろー！！ハヤテー！！！！」

地主、気絶

「風呂入ってくるねー」

ミリィとティナが入浴する…

くハヤテのほうく

「うあゝ、星が見えるよゝ…うう…」

「しっかりしろ…!!ハヤテ…!!」

必死でガイとヴァンがハヤテを支えていた

く全員入浴後く

「よし…!!寝るぞ…!!」

今日はいつも以上に疲れたなあ…

早く寝ておきないと…

「あ、その前に枕投げするぞ…!!」

…

どんだけ騒ぎたいんだよ…!!

（翌日）

ピピピ
ピピピ

A M 5 : 0 0

ハヤテがおきて人数分の飯を作っている

そこで

「おはようハヤテ君…」

「おお、おはよう、ミリィ」

かわいい寝癖を直しながら目をこするミリィであった

ハヤテ（でもまあ、これでいいかも…）

（A M 6 : 4 5）

「おきろー！！」

ガイ「もう少し…ムニャムニャ…」

起きる気なしか

「遅刻してしらねーぞ」

「今何時!！」

起きたな

ヴァンはガイが起こしてくれるであろう

問題はティナとテリシア…

起きるのか？

女性を起こしたくないハヤテである

…

終わり

学校の放課後（後書き）

長く書きました…
お疲れ様です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4635v/>

ペーパー学園

2011年10月9日23時28分発行